

小宇宙としての 人間の成り立ち

◁ 起源と目的 ▷

1. 何を知らなければならないか。

あなたは、いったいだれですか？自分は何なのか、何故ここにこうしているのか、これまでにお考えになったことが必ずあったと思います。その答は見つかりましたか。ひとつの疑問を解くためには、その問題を本当に理解しないと解決の道すじが見えてこないと思います。病気もその原因がわかれば、治療のほとんどは解決すると言いますね。ですから人間にとっては、まず自分自身、人間について深く知ることがすべての始まりではないでしょうか。

では、人間についてどこまで探究していけるでしょうか。古来、多くの民族や宗教、文献が靈魂の存在や生まれ変わり、天国、地獄の話などを伝えてきています。永遠の生命についても、世界中の国々で錬金術や房中術、ヨガ、仙道、合気道など、大変多くの秘密結社や諸々の組織、研究が成されてきました。ここでは信仰や宗教、道徳としてのみ人間を探るのではありません。あらゆる面から探っていくための手立てをお知らせし、一人一人が自分で答を出していけるための知識をお伝えしたいと思います。どんな権威のある人が言うことでも、それだけで信じるのは正しくありません。自分自身で考え、判断していかなければ本当に自分のものにはなりません。

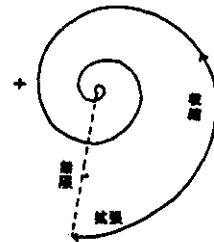
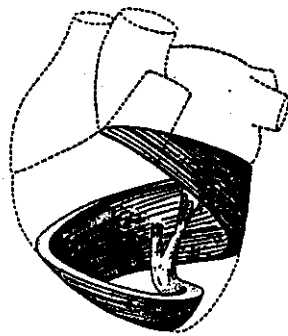
2. 生命を生み出すもの

我々の生きているこの宇宙は物質とエネルギーから成り立っています。この物質とエネルギーはどういう関係にあるのでしょうか。エネルギーは純粋に中性であり（善悪、陰陽いすれでもなく）、形を持っていません。そのエネルギーの密度を高くすればする程、エネルギーは形をとってきます。エネルギーの密度を高く

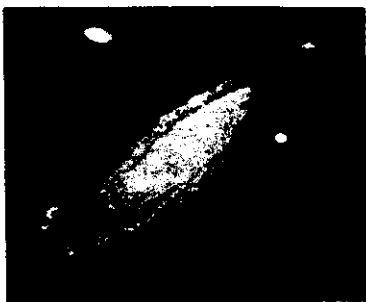
し限界まで凝縮させると、はっきりとした物質としての形を持ちます。つまり物質は、エネルギーがそのエネルギーを形として表現したもの、エネルギーが表現をとった結果、ということになります。これは物理的な法則です。水を例にとれば、水になったり、水蒸気になり水素という目に見えないものになったりします。水素という見えない原子のエネルギーがいろいろの形に変化します。ですからこの物質とエネルギーの間には、その振動数の違い、密度の違いによって無数の段階、次元が生じています。そしてこの2つの間にはエーテルという有機成分があります。これらの無数の次元、エーテル成分はバラバラにあるのではなく、目に見えない形で浸透し

あって存在しています。この物質とエネルギーは常に円を描き、らせん状に振動しています。このらせんということについては、また別の機会にお話したいと考えています。このらせんということについて考えてみるのもすばらしい発見があると思います。

人間の心臓。血を心臓腔より送り出すために収縮する筋肉の繊維組織も渦巻形であることを示している。
 著者サイエンティフィック・アメリカン
 一九五七年五月号より。



さて、この物質とエネルギーの絶えまない動きは万物を動かす力を生じ、全宇宙に生命を生み出させます。とすると、宇宙のあらゆるものはこの2つの力が関係していると言うことができます。つまり軽くなり浮上していくという振動数の高い方向に向かう力と、重く固まるという振動数の低い方へ向かう力と。または中心に向かう求心性の方向と外へ向かう遠心性の方向、あるいは陰性（ネガティブ）と陽性（ポジティブ）、+（プラス）と-（マイナス）、闇と光などと言うこともできる2つの力です。ですから存在するすべてのものは二面性を持ち、円を描き渦を巻いています。指紋も頭のつむじもそのエネルギーの表われです。同様に多くの星雲、銀河系、太陽系、地球や他の惑星も丸い形であり渦を巻き、自転、公転しています。



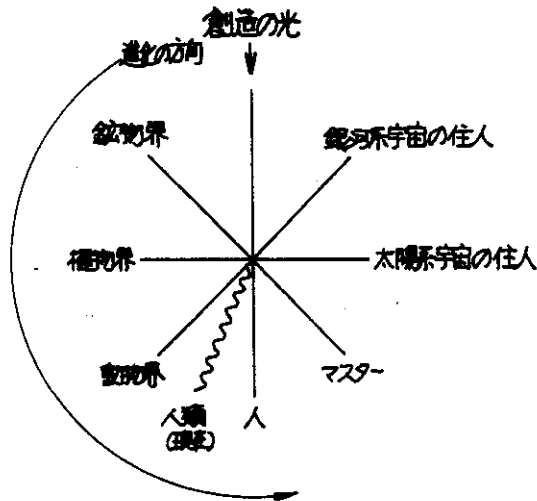
アンドロメダ星雲

この2つの力を包含しているものは何でしょうか。物質はエネルギーであり、エネルギー

一は物質とも言えます。ですから、エネルギーを真に理解できれば、生命を理解することができます。この2つの力を生み出しているものはどのようなものでしょう。物質がその振動数を高くし、どんどん緻細になっていくと形を成さなくなります。それをもっともっと高めて純粋に洗練された振動数のものにしていくと、どういうことになるでしょう。それはもう、我々の五感ではとてもとらえられない。言葉で表現できないエネルギーになります。だれもそれを言葉や概念や絵に表わしたりすることはできません。それで神とか、絶対、永遠、創造の光というような言葉で表現されてきました。

「はじめに光があった。」と現在の宇宙論は言います。宇宙のはじめがそんなに光で満ちていなかったら、今とは全く別の宇宙になっていただろうと宇宙の専門家は言っています。

宇宙はこのように成り立っています。宇宙の空間はただの空間などではなく、その空間にすべてが潜んでいます。

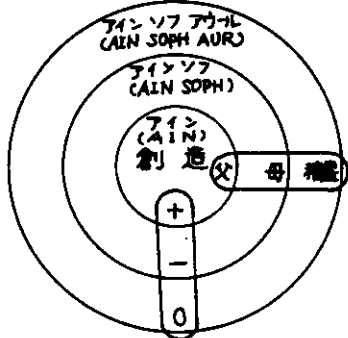


3. 永遠の生命

ここで宇宙と我々の関係を考えてみましょう。宇宙に存在するすべてのものは、この大宇宙（マクロコスモス）を成り立たせている力によって生み出されました。ですから、すべての種類の生命、動物、植物、人類の別なく、またたったひとつの細胞、原子さえもこの宇宙の成り立ちが表現されたものと言えます。ですから人間も、その中に宇宙のすべてを持っている小宇宙（ミクロコスモス）ということが出来ます。つまり人間は物質である肉体と、エネルギーである魂と、そしてこの2つの間にあるエーテル体（霊体）の三要素を、今あるこのひとつの体の中に持っているのです。そして存在するすべてのエネルギーの中で最も純粋で緻細

なものである魂は永遠からやってきます。この魂のエネルギーは我々のすべての中で最も価値があり、神聖なものです。ドイツの神秘哲学者であり、幻視者であるヤコブ・ベームはその著書「アウロラ」で次のように書いています。

汝の眼を開き、汝自身について考えよ。
人は己の内なる三位一体と共に在る神の外観と、
神の力とにより、創造された。
汝の内なる人を観よ。



すべての次元に三位一体がある

もし汝が愚かで盲目の獣でなければ、そのとき汝は、

それを明らかな輪郭をもって観るであろう。それ故に観察せよ。

人間は神の本性を反映しているものなのです。ここでは宗教的、道徳的に言っているではありません。科学的に、エネルギー的見地から言っているのです。そしてこれからのテーマにそって、エゴというものの科学的説明、生理学的説明をもしていきたいと思います。多くの方が肉体だけが生命だと思っています。でも目に見えないいくつもの体を我々は持っていて、その見えない内的な体の方が真の生命、永遠の生命なのです。なぜなら、エネルギーが消費することはないからです。形を変えるだけです。

4. 肉体、霊、魂を知る

多くの方が“靈魂”というように霊と魂を区別しませんが、区別しなければなりません。これらの存在は医学的にも研究、実証され、そのような医学者、科学者達による研究報告など、多くの本も出されています。

肉体

まず肉体は地球に属し、ごらんのとおりに見えます。地球からそのエネルギーをもらうため、地球と同じミネラルを体内に持っています。とても凝集された重い存在なので時間、空間、宇宙の重力などに制限され、三次元に属します。三次元では48の法則に拘束されます。肉体はその物質的・生命維持のため、消化、呼吸、生殖などの臓器を持ち、それらを有機的に組み合わせて働かせています。肉体は、お祭りの時などに売っているヨーヨーの、風船のようなものです。中に入っている水や空気を包む外側のカラです。肉体は霊の洋服です。肉体は死後、地球に戻ります。大地からもらったものは大地に還します。

霊、心理(サイキス)

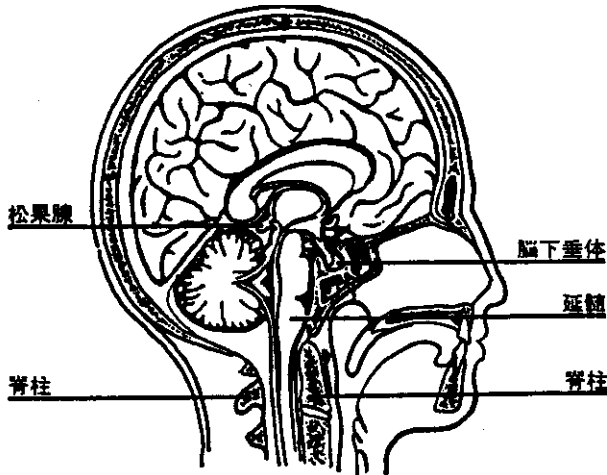
霊は心理(サイキス)とも呼ばれ、月に属します。肉体よりずっと洗練されたエネルギーなので肉眼で見ることはできません。時間や空間に制限されず四次元に属します。四次元は24の法則に拘束されます。時間や空間に縛られないので、起きている時も眠っている時も、24時間活動することができます。夢はその表われです。でも我々は夢が何であるか知りませんから、夢に重要性を感じることもなく、また夢の中で自覚を持って、意識を持って過ごそうとは考えません。我々の現実、広大な世界のほんの一部分のこの世がすべてだと思って生きています。霊、心理は肉体のように有限であったり、休むことも老いることもありません。

霊、心理は月の影響を受けるので、人間は心理的、肉体的に月との関連を持ちます。月の満ち欠けは女性の生理的機能に影響を及ぼしますし、我々の髪の毛の中を流れている体液も月のリズムと共に上昇、下降をくり返します。満月の時には精神異常がひどくなる人もあります。

多くの方がこの霊、心理の存在を意識しませんが、我々が精神的に上昇するた

めには、この霊、心理の問題は大変重要です。

また、霊の指令室は、我々の体、眉間の奥にある松果体という内分泌腺にあります。そして同時に体中のすべての細胞の中にもあります。一人の人間が宇宙の縮図であるように、一つの細胞も人間の体の縮図だからです。この松果体（松果腺）は多くの哲学者が、可視と不可視の世界を結び合わせている魂の座であると



脳下垂体と松果腺

(平河出版社発行、C. W. リードビーター著、
本山・湖漢共訳「チャクラ」より転載)

述べています。デカルトは「人間においては、魂と体は松果腺という唯一の場所でのみ、たがいに触れ合っている。」と言っています。この松果体は超視覚の位置と言われたり、錬金術の蒸留器にたとえられてきました。この錬金術については性のテーマの時にお話します。

霊、心理（サイキス）はエーテル（霊気）という成分を持っています。これは非常に繊細なエネルギーなので超視覚を持った人、特別に開発されたエレクトロニクスの機械を通してでないと見ることはできません。エー

テルは肉体に生命を与えるもと、生命体とも呼ばれます。この生命体については次号で詳しく説明します。また霊、心理の機能として超常機能がありますが、これもそのテーマの時に説明します。よく心靈エネルギーのことをサイキックエネルギーと呼びますね。こんなお話をするとユリ・グラーを連想する人が多いかもしれませんが、反感や不信を持つ人も多いでしょう。でも彼のような人は世界中に、しかも彼以上の人が大勢います。このサイキックな、心靈的なエネルギーの存在は、もう科学的にも証明されています。これからますます深い研究が成され、だれの目にも明らかにされていくでしょう。ソ連という唯物主義の国が、世界で最もそのような研究と開発が進んだ国だということを皆さんはどう思われますか。不信や疑問は、ただ感情的に持っているものではなく、自分自身で調べてみれば科学的な事実を知ることができるでしょう。

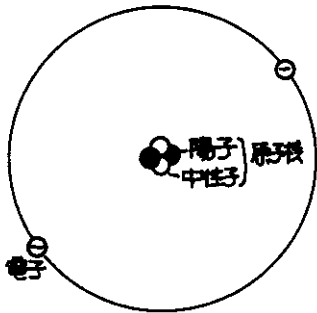
魂

太陽はすべてに生命を与えますが、我々の魂は太陽に属します。そしてこの太陽は絶対太陽（太陽系外太陽）との関連を持ちます。魂は我々の中で最も洗練されたものであり、五次元から無限にまでも至ることができるものです。我々の魂は完全に純粋なものであり、表現不可能な永遠よりやってきます。言葉や概念と

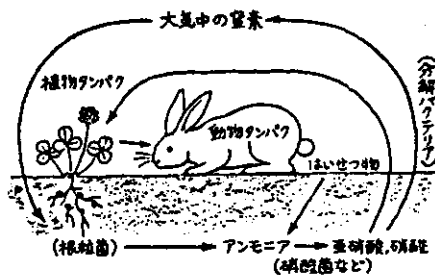
して理解したり、目で見ることにはできません。あまりに純粋で繊細なエネルギーなので、どんな人の魂も決して陰性なもの（ネガティブなもの）、闇は受け入れません。魂が受け入れるのは魂の栄養となる繊細な高い振動（バイブレーション）のもの、エネルギー的にもずっと高い、100%陽性（ポジティブ）なもの、光だけです。

魂の栄養となる高い振動、バイブレーションとは、純粋な叡智、知識、洗練された音楽、芸術、昇華された性エネルギー（性ホルモン）、献身的行為、儀式、マントラ（真言）、スートラ（お経）などです。単なる信仰などではなく、科学的に生理学的に歴史的に、そして芸術的にも興味深い実証的な説明があります。ベートーベンやモーツァルトの好きな人はとても多くいますが、それも理由があるのです。この魂の栄養については、それぞれのテーマの時にふれていきます。

魂は我々が持っているすべての中で最も神聖で価値のあるもので、その主要な原子は心臓の左心室に位置していると言われ、同時にすべての細胞の中に存在します。ということは、我々が肉体、霊、魂の3つの要素から成るように、すべての原子は、陽子、電子、中性子からなり、すべての細胞には物質（肉体）、エネルギー（霊）、意識（細胞記憶、魂）があるからです。ですから我々自身が宇宙そのものであり、1つの細胞自体も宇宙を表わしているのです。自分を知れば宇宙を知り、宇宙を知れば自分を知ることになります。



この肉体、霊、魂についてまとめてみます。肉体は霊の衣であり、霊は魂の衣であり、魂と肉体を中和させるものです。これら3つの存在は別個にあるのではなく、互いに関連し、浸透しあって、ひとつの存在としてあるのです。月は地球から栄養をもらい、太陽のエネルギーを反映させるものです。地球と太陽の媒体です。このように地球、月、太陽という3つのエネルギーの係わりによって、我々は存在しています。我々は自分1人で存在しているのではなく、これら3つの影響だけでなく他の惑星とも、宇宙全体とも深い係わりを持ち存在しています。ですからこの世に存在しているあらゆる生きものは、すべてエネルギー的係わり、エネルギーのバランスの中で存在しています。木の葉1枚、無意味なものはありません。あらゆるものがエネルギーを与えあい、吸収しあい、エネルギーを交差しあって生きています。

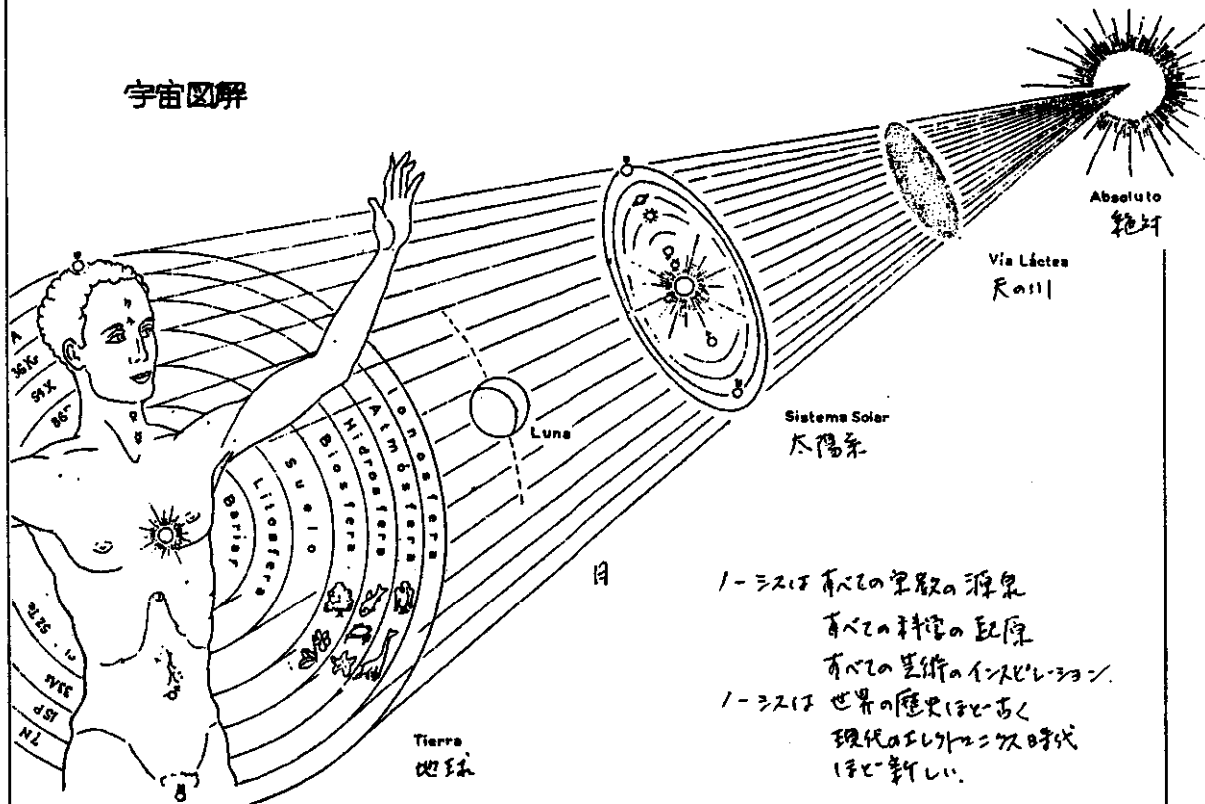


窒素の循環

5. どこに向かうのか

魂の創造の光は表現できない永遠。至高神（父）からやってきて、天の川（母）を通り銀河系、太陽系、太陽、月、地球とやって来ます。そしてたどりついたエネルギーが地球上で物質的な体を与えられ、鉱物界、植物界、動物界、人間と表現をとりながらここまでやって来ました。ここまでは自然のサイクルの進化でした。しかし、ここから先の魂の故郷に至る道は、自分自身が意識をもって努力していない限り、進化していくことはできません。エネルギーというものは中性で上にも下にも行くことができます。魂というあまりにも繊細なエネルギーは、重いエネルギーである我々の肉体を、上昇しなさい、進化しなさいと内的に押し込んでいるものです。我々の目的は進化をして、その起源に還ることにあります。ですから、肉体、霊、魂を区別し、それぞれのバランスを保ち、正しい位置で働かせることが大事です。我々の心理を浄化させ魂に栄養を与えなければなりません。

宇宙図解

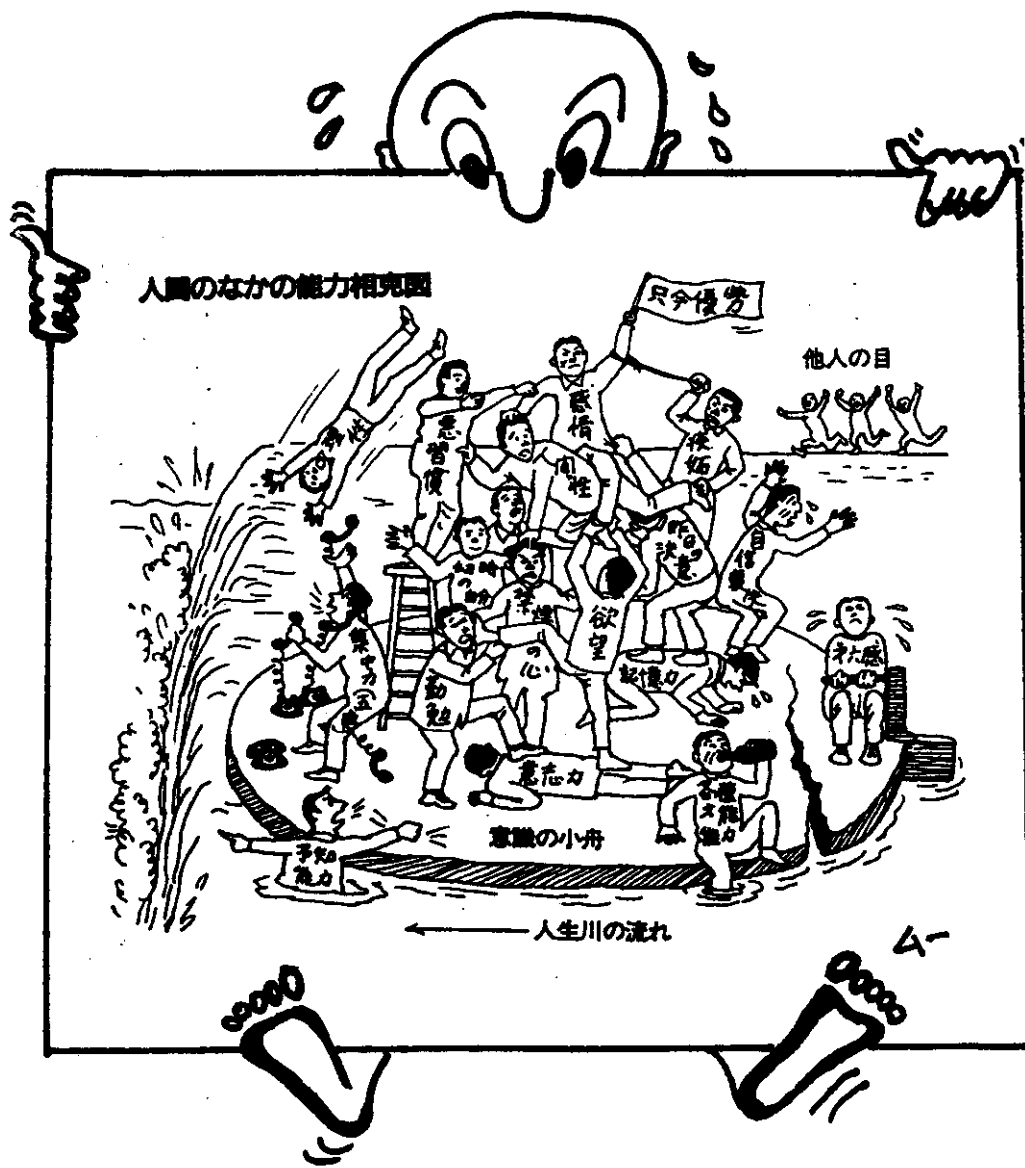


1-3は 全ての宇宙の源泉
 全ての科学の起源
 全ての芸術のインスピレーション
 1-3は 世界の歴史はごく
 現代のエレカンクス時代
 はごく新しい。

たとえば、自分が何かを欲するとし、物を見たり、異性を見たり、何かになりたいとか、その物欲、独占欲、権力欲、虚栄を感じるとし、その欲がどこから来ているのか、我々は考えずにはほとんど無意識に行動しています。そしてほとんど欲のままに行動していることさえ気が付きません。欲に負ければエゴに栄養がいき、欲に勝てば魂が強くなります。つまり、肉体と魂の間において、霊

心理がそのエネルギーを心理的に上に向かわせればエゴに勝ち、下に向かわせればますますエゴの重い成分が増えるというわけです。このように我々の心理的な問題は大変重大です。エネルギーというものをどのように方向づけるかが重要です。それは意識ある努力をしなければできません。エゴは科学的な成分として我々の体内に存在しています。エゴについても後に詳しく説明します。

魂は100%、純粋な神聖なものしか欲しません。でもそれがわからないのは、我々の魂がエゴや肉体など重い、ぶ厚い成分にとり囲まれているからです。そしてそのような現実の本当の自分の姿が見えず、外的な表面的な姿しか見えていないからです。ですから、我々自身が自己を本当により深く理解し、我々の肉体的、心理的な使い方を正しく理解する時、我々は自分自身を最大限に生かすこと



ができ、自然界のエネルギー操作をも身につけることができます。ギリシャでは魂を輝く光の体であり、アウゴエイデス（augooides＝輝く光体）と呼びました。ダマスキオスは、魂について、こんなふうに書いています。

実際天界において我々の輝く「アウゴエイデス」は、天界的な光輝、すなわち、あまねくその深みを流れる天上の栄光によって充たされ、それに神的な強さを備える。けれども、より低下した状態においては、この光輝は失われ、謂わばそれは濁り、しだいに暗くなり、それにつれて物質的になっていく、いかがですか。味わってみてください。

地球からもらった重い物質的な肉体におおわれ、月のエネルギーの影響を受け、自分自身の重い陰性な厚い壁が、魂の求めている太陽のエネルギー、太陽の光をはね返しているのが、我々人類の現状でしょう。我々は霊を解放し心理を浄化し、太陽のエネルギー、光が魂に直接届くように、意識の窓を開かなければならないということです。我々は今ここにいる、と思っています。でも、じっと静止しているものは、物理的にも科学的にも、また精神的にも何ひとつありません。万物が常に動いています。ですから我々も、エネルギー的に上昇しないのならばそれは下降するほかはないのです。我々の本当の姿は無自覚のまま、坂道をころげ落ちているのも気付かず、エゴの声が、魂の声かもわからず、「夢」の中で生きているようなものです。

ノーシスは、道徳や宗教で「目を開けよ」と言っているのではありません。純粹に科学的に真の自分の現実を知らなければならないと言っているのです。だれでもどこへでも行き、何でもする自由を持っています。何を受けとるのも拒否するのも自由です。でも宇宙の法則、自然界の法則から逃れて生きることはできません。キリストの言葉に、自分は平和をもたらすためではなく分離をもたらすためにやってきた、という言葉があります。それは魂とエゴを分離させ、魂はエゴと闘い勝たなければならないのだということを意味しています。向かうべき最大の相手は自分のエゴであると教えています。でもエゴが人類の最大の問題だと、これ程多くの人が思っているにもかかわらず、そのエゴについてどれ程の解決策が示されているのでしょうか。エゴというものが科学的な成分であるとか、そのエゴの成分が体内でどのように作られ、蓄積されていくのか、そして肉体的にだけでなくどれ程自分自身に害のあるものか、そのエゴに勝るエネルギー、成分をどのように生み出していくのか、などという科学的な、生化学的な知識を、だれが皆さんに教えてくれているでしょう。そのような知識に、今まで出逢ったことがありますか？ノーシスは、エゴに立ち向かう方法を道徳や宗教としてではなく、科学的な総合的な知識として、求める人すべてに、無料で分かちあっています。

すべての宗教は原子物理学に至る時、ひとつになるものです。そして、科学が本当の純粹科学に至る時、それは真の宗教と完全に一致するものです。真の宗教は真の科学だからです。

だれでも本当は、自分は良い種をまきたいと願っているはずです。まいた種はすべて自分自身に返り、自分自身が刈りとらなければならないのですから。でもそのためには、良い種を見きわめ、種まきをする土を耕さなければ、育てていくことはできません。

ノーシスは、本当の自由と責任ということ、一人一人のエゴ根絶と精神的進化を教えます。何の強制もなく、すべて自発的なものです。お金さえも、何の搾取もありません。真実の知識というものは道を照らし出すだけでなく、自己を、そしてあらゆるものを白日のもとにさらけ出します。そして、我々を現実と直面させるものです。ノーシスは頑廃を知らなかった人類が、本来、持っていた純粹な、総括的な智慧、叡智です。ですから、新しく自己を開発していくとともに、内的に潜在しているものを呼び覚ませるものとなるでしょう。真により良くなるためには、一人一人が真に内的に変わっていかねば不可能ではないでしょうか。

次号は、我々が持っている目に見えない体についてです。生命体（バイタルボディ）と5つのセンターについてお伝えします。

प्रतिफल

